

千葉県社保協通信

2022年度 No.8 2022年 12月 23日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉セカビル 3F

TEL: 043-225-6790 FAX: 043-221-0138 Eメール syaho2022@themis.ocn.ne.jp

いのちとくらしを守るなんでも相談会実行委員会ちば

長びくコロナ禍・物価高騰・・・ 軍拡・増税 とんでもない !!

千葉労連・県民医連・県社保協・自由法曹団千葉支部などでつくる「いのちとくらしを守るなんでも相談会実行委員会ちば」では、17日(土)「なんでも相談会」を開催しました。一写真左下ー 全国一斉フリーダイヤルの「コロナ災害を乗り越えるいのちとくらしを守るなんでも電話相談」一写真右上ー(12時～18時)も併せて行い、合わせて11件の相談が寄せられました。

「年金生活で今までもギリギリだったが光熱費なども上がり、このままでは生活していけない」など、物価高騰の下、悲鳴があがっています。

85歳の父親と同居する59歳男性は「手元金は1000円しかない」「以前生活保護申請したが断られた」と言います。居住地の「生活と健康を守る会」につながりました。

82歳の元自営業の男性は「癌のため働けず、妻の年金月10万円で1日1食で暮らしている」と



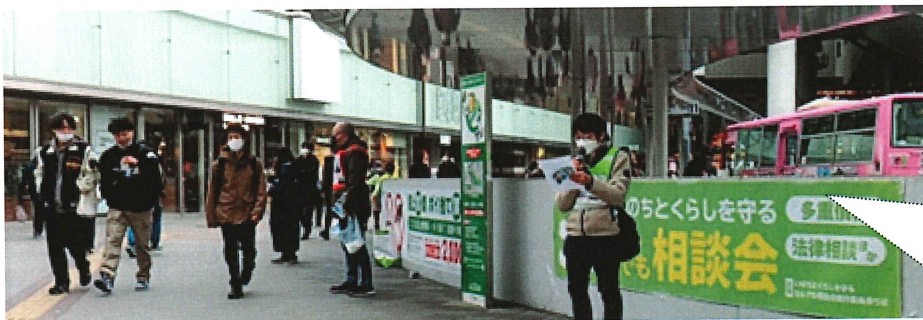
千葉労連会場では弁護士、労働相談センター相談員、生健会役員の7人が交替で電話相談に対応しました。

言います。生活保護の利用は妻が「死んでも嫌だ」と言っていると話します。ひきつづき、相談ができるよう連絡先を確認しました。

11件の相談の内労働相談は3件、生活相談は3件、その他5件でした。

全国一斉フリーダイヤル「コロナ災害を乗り越えるいのちとくらしを守るなんでも電話相談」は今回で一旦終了します。

矢澤純千葉労連事務局長は、「長期化するコロナ禍のもと苦しむ住民の声を国と自治体に届け、引き続き各種施策の充実を求めていく」としています。



13時～16時JR千葉駅東口で、案内チラシ入りティッシュを500セット配布。(事前宣伝含む)駅前の相談会場を案内しました。

弁護士、労働相談員はじめ17人のスタッフが相談と宣伝にあたりました。

コロナ第8波

県民のいのち・健康守れ

地域医療体制の格差解消・充実へ 懇談求める

コロナ新規感染者が急増する中、効率優先の医療再編、医療従事者抑制、保健所削減などの政策の抜本的見直しが求められています。

21日、県社保協と地域医療と公立病院を守る県民連絡会は、県知事宛要望書を提出。コロナ禍の教訓を生かし、国の政策転換を求めるとともに、①公衆衛生行政の充実 ②全国最低水準の医療・介護提供体制の拡充・地域格差の解消 ③医療・介護従事者が安心して働き続けられる環境づくり ④医療機関への財政支援 ⑤県内自治体病院への医師確保・財政支援を～の5点を柱に全25項目。担当課との懇談を求めています。



「要望書」を手渡す 石塚俊彦さん(県民医連)と 香取春美さん(自治労連県本部)